

S I P の成功要因

S I P は 4 年目を迎え、**事業化・実用化**に向けて大きな成果を上げている。
従来の国家プロジェクトとは大きく異なる、下記の制度が成功要因

1. **総合科学・イノベーション会議（CSTI）が、日本の経済社会の発展・産業競争力にとって重要な課題をトップダウンで選定**
2. **出口戦略を重視。基礎研究から事業化・実用化まで、一気通貫で研究開発を推進**
3. **府省庁連携、産業界が主導して本気で取組む産学官連携体制を構築**
4. **日本を代表する一流のプログラムディレクター（PD）に権限を集中**
5. **課題や目標をフレキシブルに変更。第 5 期科学技術に対応して、Society 5.0 への取組みを強化**
6. **“新市場創出等による研究開発投資の回収計画”も指標の一つとし、毎年度厳格な評価を実施。結果を翌年度の予算配分に反映**

残り1年半、 当初の目標を 超える成果を期待



革新的燃焼技術



インフラ維持管理・更新・
マネジメント技術



レジリエントな防災・
減災施設の強化



革新的設計生産技術



エネルギーキャリア



重要インフラ等における
サイバーセキュリティの確保



自動走行システム



次世代海洋資源
調査技術



次世代パワー
エレクトロニクス



革新的構造材料



次世代農林
水産生産技術



戦略的イノベーション
創造プログラム
Cross-ministerial Strategic
Innovation Promotion Program



総合科学技術・イノベーション会議

Council for Science, Technology and Innovation